

3. その他の環境保全対策

3-1 施工中の環境保全対策（水質、振動・騒音）

3-2 その他の環境保全対策（シギ科・チドリ科のねぐらの影響の検討）

3-1 施工中の環境保全対策(水質、振動・騒音)



施工中の環境保全対策を以下に示す。

1) 施工中の水質対策

橋脚の施工時に濁水が生じるため、「汚濁拡散防止膜」を設置し、基礎内の掘削時に発生する泥水は「濾過処理」をして水中へ戻す等の対策を行う。
また、工事中は水質の環境モニタリング調査を実施し、その影響についての監視を行う。



汚濁拡散防止膜の設置状況(阿波しらすぎ大橋)

2) 杭打ち作業実施時の振動・騒音対策

鋼管矢板を打設する際に、振動・騒音が生じるため、振動・騒音が少ない工法を検討する。

なお、工事中は振動・騒音の環境モニタリング調査を実施し、その影響についての監視を行う。

阿波しらすぎ大橋での施工状況(出典:徳島東環状線阿波しらすぎ大橋「環境にやさしい橋」を目指して...)

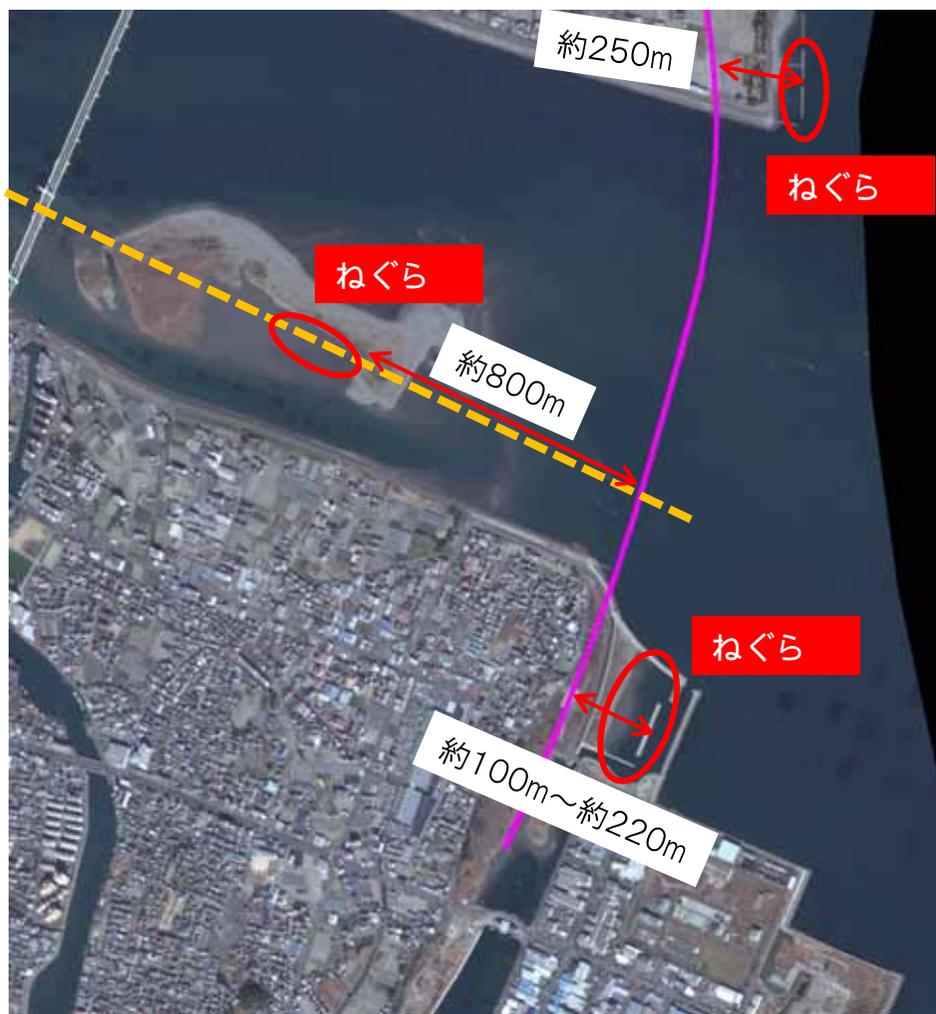


鋼管矢板： 1200、L = 54.0m、N=75本
工法：打撃工法(防音壁・防音管施工)
規模：21.5 × 18.6 × 4.5m
スタッド鉄筋N=5,824本(112本/1鋼管)

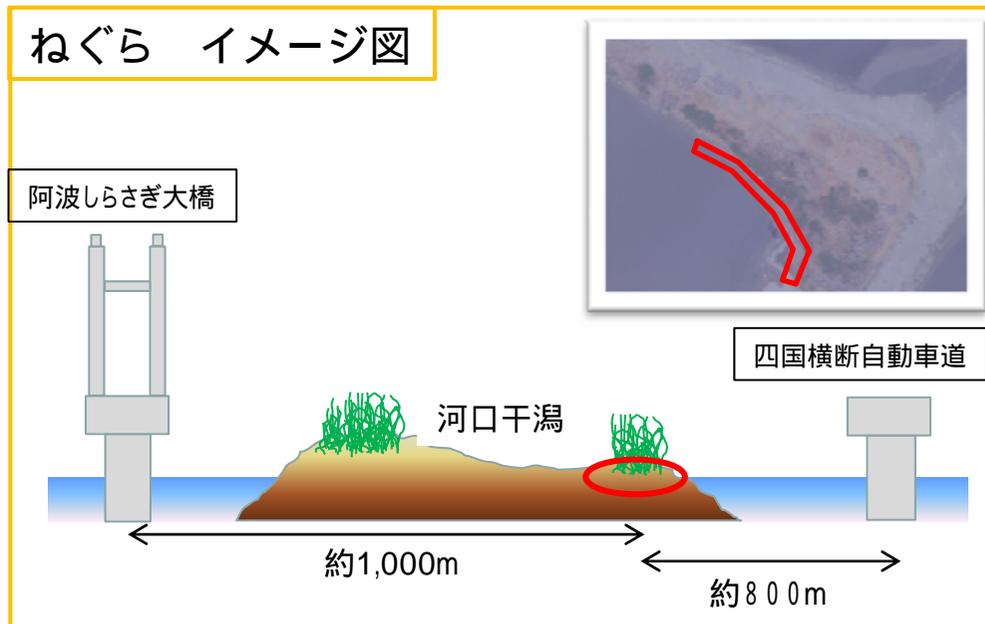
陸上での実験では、杭打ち時の騒音は「防音壁・防音管」で音源から60mの距離で13.5db(デシベル)の減音効果がありました。

3-2 シギ科・チドリ科のねぐらへの影響

シギ科・チドリ科のねぐらと、本事業の架設場所の位置関係を整理して以下に示す。



ねぐら イメージ図



先行事例では、平成15年度の工事開始後も継続的にシギ科・チドリ科は出現しており、**工事中の影響によって減少する傾向は見られていない。**

本事業では、ねぐら が本線から約800m、ねぐら と は、本線から100~250m以上離れているため、高速道路の存在がねぐらの上部の開放性を損失していないことから、**ねぐらとしての機能が維持される**と考えられる。

